

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 新年のご挨拶

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会  
会長 原田 実生

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、会員の皆様方には、常日頃、当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は大阪府北部・北海道胆振東部地震、西日本を中心とした豪雨災害、度重なる台風襲来等、例年にも増して自然災害が頻発した中で、当協会も復旧・復興に微力ながらも貢献したいと考えております。ところで、我が国経済は、雇用・所得環境の改善や株価の安定などを背景に、景気回復基調にありましたが、個人消費は足踏み状態でやや力強さに欠けているものの、企業収益は堅調が持続しつつ、全業種人手不足状態から労働需給は逼迫した状況が続いているようです。

このような状況下、住宅投資は弱い動きが続いており、昨年の住宅着工の動向については、住宅ローンの低金利効果や相続税の節税対策による着工が落ち着き、前年割れが見られましたが後半に入りやや回復の傾向にあります。先行きについても、当面、横ばいで推移していくものと見込まれていますが、予定されている消費税増税の影響、海外経済の不確実性等の影響により、景気の先行きには留意する必要があります。

このような中で、昨年のプレカット加工業の業況をみますと、全体的にはやや軟調な住宅着工を背景に、地域差が見られましたが年間を通しては、例年並みの年だったと言えるのではないのでしょうか。一方、木材利用に関しては、国産材資源の充実を背景に、公共建築物への木材利用の推進など各般の積極的な政策を受け、各地で中大規模木造建築物の大型商業施設や公共施設等の建設が促進されるなど、これらの動きがプレカット加工業においても、新たな需要分野として期待されています。

当協会ではプレカット加工業に対する技術支援の取り組みとして、平成24年度から「プレカットCAD技術者認定登録」を実施しています。昨年までに全国の会員内外工場の延べ400名に認定登録をいただいています。これらの工場においては、認定技術者の存在が各プレカット工場の優れた加工技術レベル向上の新たな証として活用されているところです。今後については、プレカット加工率が9割を超えている状況と少子高齢化等を背景とした新設住宅着工戸数の漸減傾向への対応として、一般流通材を利用した施設系中規模木造建築物等のプレカット加工図作成に当たって必要となる木質材料、木質構造、関連法規等について研修内容に加え、新たな需要への対応能力の向上に努めて行くこととしています。

一方、業務支援としては、合法木材供給事業者認定等による違法伐採対策の推進を図るとともに、全国住宅プレカット部材共済会が実施するプレカット部材瑕疵保証事業に加えて、公共建築物等木造利用促進法の施行により、地域材のプレカット部材を利用した施設系木造建築物が増加している関係で、プレカット工場の賠償リスクを担保する「プレカットミス賠償責任保険制度」を構築し、運用を開始いたしております。

これらを通じて、安全・安心な住環境の創造で顧客に満足の得られるような木造建築物の提供に協会員がお手伝いできることを願っています。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になりますよう、そして皆様方にとってすばらしい一年となりますようにご祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



# 第53回全国木材産業振興大会広島大会開催される

## ～非木質化から木材の時代へ 宣言決議を採択～

第53回全国木材産業振興大会は、平成30年10月18日に「木をつなぐ～神々の時代から、現在（いま）、そして未来へ～」をメインテーマに掲げて、広島県広島市の「広島国際会議場」において、全国から750名が参加のもと開催されました。来賓として牧元林野庁長官、長谷川国土交通省住宅局住宅生産課長、湯崎広島県知事、松井広島市長など多数のご来賓が出席され、祝辞を述べられました。

大会の第一部では、①都市部などでの木材利用拡大の実現、②森林資源の循環利用のため体制の構築、③木材産業振興のための予算確保・税制措置の継続、④木材利用を創出する技術開発・普及等、⑤合法木材、JAS製品等の木材供給や人材の育成確保等の大会宣言が満場一致で決議されました。また、平成26年に行った全国森林組合連合会との「‘ウッドファースト社会’の実現に向けた共同宣言」に続き、27年は（一社）日本林業協会、（一社）日本林業経営者協会、28年は全国素材生産業協同組合連合会、29年は（一社）全日本木材市場連盟も加わった6団体、本年は、我が国の森林資源を有効に活用し、「伐って、使って、植えて、育てる」という循環利用を確立するためには山元に利益を還元できる木材利用の仕組みを川中、川下が一体となって確立することが重要であるとして、関係6団体は10月10日に「森林・林業の再生に向けた共同行動宣言2018」に署名したことが、今大会で報告され、満場の賛同を得られました。

また、第二部においては、島根県出雲市の出雲大社権宮司の千家和比古氏を講師として「高大な木造り神殿～出雲大社をめぐる“なるほど”探訪～」と題した記念講演が行われました。

第三部の表彰式では、退任団体長、木材産業功労者、協同組合事業功績者等それぞれの表彰が行われました。

## プレカットCAD技術者認定登録状況

(平成30年12月20日現在)

| 研修受講<br>年度 | 認定級別 | 東京会場       |                  | 名古屋会場      |                  | 大阪会場       |                  | 合計         |                  |
|------------|------|------------|------------------|------------|------------------|------------|------------------|------------|------------------|
|            |      | 認定者<br>(人) | うち会員工場<br>に所属する者 | 認定者<br>(人) | うち会員工場<br>に所属する者 | 認定者<br>(人) | うち会員工場<br>に所属する者 | 認定者<br>(人) | うち会員工場<br>に所属する者 |
| 24年度       | 2級   | 28         | 14               | 21         | 8                | 25         | 8                | 74         | 30               |
| 25年度       | 1級   | 17         | 9                | —          | —                | —          | —                | 17         | 9                |
|            | 2級   | 16         | 10               | 21         | 7                | 15         | 3                | 52         | 20               |
|            | 3級   | 4          | 1                | 1          | 1                | 2          | 0                | 7          | 2                |
| 26年度       | 1級   | 2          | 0                | —          | —                | —          | —                | 2          | 0                |
|            | 2級   | 42         | 26               | 33         | 14               | —          | —                | 75         | 40               |
|            | 3級   | 4          | 3                | 2          | 0                | —          | —                | 6          | 3                |
| 27年度       | 1級   | 3          | 2                | —          | —                | —          | —                | 3          | 2                |
|            | 2級   | 29         | 12               | 22         | 11               | —          | —                | 51         | 23               |
|            | 3級   | 4          | 2                | 4          | 2                | —          | —                | 8          | 4                |
| 28年度       | 1級   | 7          | 3                | —          | —                | —          | —                | 7          | 3                |
|            | 2級   | 27         | 13               | —          | —                | —          | —                | 27         | 13               |
|            | 3級   | 3          | 2                | —          | —                | —          | —                | 3          | 2                |
| 29年度       | 1級   | 7          | 1                | —          | —                | —          | —                | 7          | 1                |
|            | 2級   | 50         | 20               | —          | —                | —          | —                | 50         | 20               |
|            | 3級   | 13         | 7                | —          | —                | —          | —                | 13         | 7                |
| 合計         | 1級   | 36         | 15               | —          | —                | —          | —                | 36         | 15               |
|            | 2級   | 192        | 95               | 97         | 40               | 40         | 11               | 329        | 146              |
|            | 3級   | 28         | 15               | 7          | 3                | 2          | 0                | 37         | 18               |

# 協会会員工場基礎調査結果について（第4回）

## — 年間総生産量・AQ製品生産量調べ —

調査対象年月：平成29年12月  
調査対象工場数：43工場

|                      | 10,000坪未満           | 10,000坪以上<br>20,000坪未満                              | 20,000坪以上<br>30,000坪未満 | 30,000坪以上<br>50,000坪未満                                  | 50,000坪以上  | 合計      |
|----------------------|---------------------|---|------------------------|---|--|---------|
| 総生産量<br>(単位：100坪)    | 0、38、73、<br>12、0、45 | 187、127、<br>119、125、<br>121、190、<br>139、138、<br>170 | 220、288                | 357、350、<br>472、480、<br>370、486、<br>410、462、<br>330、352 | 740、869、<br>6,000、3,000、<br>524、770、<br>729、2,453、<br>1,200、527、<br>642、1,100、<br>900、4,482<br>542、1,102 | 31,641  |
| 平均                   | 28.0                | 146.2   | 254.0                  | 406.9   | 1,598.8  | 735.8   |
| (前年平均)               | (68.7)              | (148.0)   | (244.0)                | (397.7)   | (1,109.4)  | (515.3) |
| AQ製品生産量<br>(単位：100坪) | 0、0、69、<br>0、0、0    | 0、25、1、<br>0、0、15、<br>57、0、0                        | 0、0                    | 0、0、412、<br>0、370、0、<br>0、0、0、92                        | 0、642、100、<br>0、0、0、297、<br>500、23、<br>2,000、1,000、<br>0、0、1、<br>2,453、0                                 | 8,057   |
| 平均                   | 11.5                | 10.9  | 0、0                    | 87.4  | 438.5  | 187.4   |
| (前年平均)               | (21.0)              | (11.8)  | (57.3)                 | (28.1)  | (117.9)  | (52.9)  |
| AQ製品生産比率             | 41.1%               | 7.5%  | 0.0%                   | 21.5%   | 27.4%  | 25.5%   |
| (前年AQ製品<br>生産比率)     | (30.6%)             | (8.0%)  | (23.5%)                | (7.1%)  | (10.6%)  | (10.3%) |

### ◇簡単なコメント

- 1 会員43工場を対象とした調査によると、平成29年の1工場当たり年間平均生産量は、73,580坪で、1棟当たり40坪換算で、約1,840棟に相当し、前年の平均生産量に比べると、約40%の増加になっている。これは、プレカット工場の加工設備の増設や更新が引き続き進んでいることや各工場の活発な受注活動に比例した数字となっている。階層別に見ると、30,000坪以上のクラス増加し、20,000坪未満の小規模クラスで平均生産量が減少している。  
前々回調査までは、各工場の生産能力の増大により生産量の階層別に見た工場数は上位の階層にシフトする傾向が見られたが、今回の調査ではその動きが顕在化してきている。これは、大規模工場からの回答があったことも一因と考えられる。
- 2 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は25.5%で前年に比べて15.2ポイント上昇した。階層別にAQ製品の生産比率を見ると、今回は中堅クラスのプレカット工場において、AQ製品の生産が低下していることがうかがえる。反面、大規模工場においては増加が顕著になっている。しかしながら、今回の調査では、AQ製品の生産に取り組む会員工場は17工場と前々回・前回調査より増加しているが、調査対象工場の4割には満たない状況である。今後、より一層の性能・品質の高い住宅供給のためには、まずは、AQ製品生産に取り組む会員工場の増加が喫緊の課題といえる。

# プレカット業況調査 (平成30年11月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 50 %)

| 設 問   | 回答比率 (%)            |     |     | D I | 前回<br>D I |
|---|---------------------|-----|-----|-----|-----------|
|   | (1)                 | (2) | (3) |     |           |
| 1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)    | 49                  | 42  | 9   | +39 | -10       |
| 1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)       | 12                  | 33  | 55  | -43 | +36       |
| 2-1 貴社の坪当たり平均総加工単価はいくらですか。  | 答: 6,000円(対前回調査±0円) |     |     |     |           |
| 3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減) | 0                   | 100 | 0   | ±0  | ±0        |
| 3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予想しますか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)    | 0                   | 97  | 3   | -3  | +3        |
| 4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。<br>(1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難                                | 6                   | 76  | 18  | -12 | +13       |
| 4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。<br>(1) 容易 (2) 変わらず (3) 困難                           | 12                  | 70  | 18  | -5  | -3        |
| 5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)     | 27                  | 64  | 9   | +18 | -17       |
| 5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。<br>(1) 好転 (5%以上の伸び) (2) 変わらず (±5%未満) (3) 悪化 (5%以上の減)        | 3                   | 55  | 42  | -39 | +16       |

\*DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\*前回調査: 平成30年8月

## ◇簡単なコメント

11月の各設問のDIをみると、受注額については、好転の会員が悪化をかなり上回り、逆に今後については悪化の予想が大きく上回っている。収益についても、現状は好転が悪化を上回っており、比較的好調のような状況である。今後は逆に好転の予想が0で悪化の予想が3割強となっている。加工単価については会員全てが変わらずの状況であり、3ヵ月後についてもほぼ変動がないと予想している。また、資材の入手状況は、変わらずが大半である中、少数であるが現状困難で先行き困難が容易を上回っている予想となっている。今後とも、引き続き受注額と収益が好調を維持出来ることを期待したい。

- 1 受注額のDIは+39で前回調査時(平成30年8月期)に比べて、好転してきている現状にあるようで、新設住宅着工戸数の動向等を反映しているものと思われる。また、3ヶ月後の予測のDIは-43で大きく悪化の予想が上回っている。今後とも、予想を覆すような業況の改善と活性化を期待したい。
- 2 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは±0と会員の全ては変わらずの状況となっている。平均総加工単価も6,000円と3ヵ月前と比べて変わらずとなっている。3ヵ月後の製品加工単価のDIは-3であるが、加工単価の変動はそれほどない現状にあるといえる。
- 3 資材入手状況のDIは-12で困難となってきている。3ヵ月後の予測のDIは-6であり、困難が容易の予想を上回っている。
- 4 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは+18と受注額同様かなり改善してきている。前回調査時の3ヶ月後の収益予測が+16であった結果が数字に反映されている。さらに、3ヶ月後の収益予測は-39と、反動ともいえる悪化の先行き見通しとなっている。

# 木の街づくりの推進に向けて

## — 平成30年度木材利用推進「全国会議」が盛大に開催 —

木材利用推進中央協議会（会長 鈴木和雄全木連会長 構成：17中央協議会会員団体（当協会も構成団体）、47都道府県地域協議会、）は、11月28日（水）に江東区新木場の木材会館において、平成30年度木材利用推進「全国会議」を開催しました。会議では、主催者として鈴木会長のあいさつに続き、来賓として、長野林野庁木材利用課長、成田国土交通省木造住宅振興室長の祝辞があり、引き続いて「公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み」の発表が行われました。まず、国の施策・取組みとして、林野庁木材利用課 長野課長は、「都市部における木材利用の推進」について、公共建築物での木材利用の事例、木質バイオマスのエネルギー利用、木材製品等の輸出拡大策やクリーンウッド法等の紹介がありました。

次に、国土交通省官庁営繕部木材利用推進室 中山室長は、「公共建築物における木材利用の推進」について、木材利用に関する技術基準の整備と普及、木造計画・設計基準改定のポイントや木造耐火建築物の整備指針及び官庁施設の木材利用の事例等を紹介しました。また、文部科学省文教施設企画・防災部施設助成課 原課長補佐は、「木材を活用した学校施設づくりの促進」について、学校施設における木材利用の促進や木の学校づくり事例等を紹介されました。

講演会では、前梶原町長 矢野富夫氏が「木とともに生きる梶原人物語（木の街づくりを目指して）～考え方を変えよう～」、東京大学大学院工学系研究科 安原幹准教授が「地域木材資源でつくる公共空間と風景」のタイトルで講演を行いました。

全国会議の中では、木材利用推進中央協議会主催による「平成30年度木材利用優良施設」の表彰が吉川貴盛農林水産大臣にご出席いただき行われました。これは、木造建築物等において地域材を有効活用した施設、木材利用分野を拡大した施設、低位利用木材を有効活用した施設など、木造建築物の普及のため他の模範になる施設を表彰し紹介するものです。今回から内閣総理大臣賞が新設されました。

表彰施設は次のとおり、内閣総理大臣賞は江東区立有明西学園、農林水産大臣賞は宿毛商銀信用組合新店舗（高知県）が、ほかに、林野庁長官賞3点、木材利用推進中央協議会会長賞4点及び審査委員会特別賞2点が表彰されました。

（内閣総理大臣賞） 江東区立有明西学園（東京都江東区）

（農林水産大臣賞） 宿毛商銀信用組合新店舗（高知県宿毛市）

（林野庁長官賞） 竹中研修所「匠」新館（兵庫県川西市）  
大槌町文化交流センター「おしゃっち」（岩手県大槌町）  
朝日村役場（長野県朝日村）

（木材利用推進中央協議会会長賞）

福島県営復興公営住宅磐崎団地（福島県いわき市）  
八戸市立西白山台小学校（青森県八戸市）  
熊本県立熊本かがやきの森支援学校（熊本県熊本市）  
認定こども園さぎなみの森 吹の棟（広島県東広島市）

（審査委員会特別賞）

都城市立図書館（宮崎県都城市）  
松尾建設株式会社本社ビル（佐賀県佐賀市）

## ■内閣総理大臣賞 (1点)



江東区立有明西学園 (東京都江東区)



## ■農林水産大臣賞 (1点)



宿毛商銀信用組合新店舗 (高知県宿毛市)



## ■林野庁長官賞 (3点)



竹中研修所「匠」新館 (兵庫県川西市)



大槌町文化交流センター「おしゃっち」 (岩手県大槌町)



朝日村役場 (長野県朝日村)



注：詳細は、木材利用推進中央協議会HPに掲載してあります。